路面電車を活用した低炭素型集配システム

京福電気鉄道㈱
鉄道部長
三宅章夫

ヤマト運輸㈱
京都主管支店長
井波勝宏

このシステムを開始した経緯

環境都市『京都』の視点で

平成22年4月、京都市は**「温室ガス削減目標40%」**の目標を設定。

平成22年10月に策定された「京都市基本計画」において、

優先的に取り組むべきものとして…

「市民ぐるみで、くらしやまちの変化を実現する『**低炭素・循環型まちづくり戦略**』」

「ひとと公共交通を優先する『**歩いて楽しいまち・京都戦略**』」

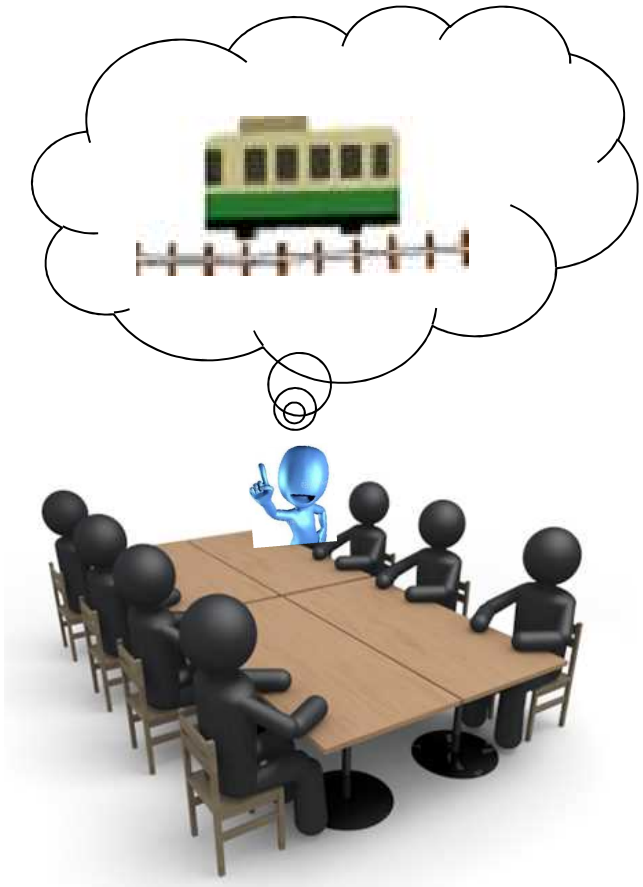
「世界が共感する『**旅の本質を追求する観光戦略**』」

など11の重点戦略を設定。

・・・これらに運輸・交通事業者として、どうすれば寄与できるか？

このシステムを開始した経緯

ヤマト運輸の視点で



なぜ「電車」・なぜ「嵐電」

●きっかけは【チーム「京都プロジェクト」発足】

■「観光都市・環境都市『京都』」から発信

・何か役に立てないか？

・環境保護活動に寄与できる取り組みは？

■「地域社会への貢献」

・安全を担保したCO2削減への取り組み

・観光地で集配車両を減らしたい

■クルマを使わない輸送方法の模索

・電車を利用できないか？

→「低炭素型集配システム」の構築へ

このシステムを開始した経緯

京福電鉄(以下『嵐電（らんでん）』）の視点で

●ビジネスチャンス？

■「思いもよらない」ところからの提案に対して
- 環境保護活動への協力は当然
- 沿線の住環境も良くなるのでは？
- 実現可能な方法は？

■電車を使って出来ることの知恵出し
- 事業上の制約をクリアするには？
- 「貨車」は無理では？
- 実際にどうやって運ぶ？

■ビジネスにつなげる
- 無駄のない方法は？
- 毎日走らせるには？
- 負担可能な費用感は？

実現に向けて

2社が出会ってみて…

● 現場とトップ、両方が動いた

■ 現場では…

・実現するための方法を一緒に考える

・実際にテストしてみる

・次のテストでは改善点をクリアする

■ トップは…

・両社のトップが実施に向け早い時期に会談し合意

→まずは「やってみよう！」

→現場が動きやすい環境に

実現に向けて

試験運行の時は・・・

道路での荷卸し

スロープでの
積み込み

電車から下ろした
台車の置き場所

スロープを長くして
再チャレンジ

等々…

実現に向けて

改良した点は・・・

トラックを
車庫へ

電車に
横付けして
積み替え

嵐山駅に
倉庫を確保

車庫の転回
スペースを
舗装拡張

等々…

実現に向けて

前例のない取り組みとしての課題①

●鉄軌道の貨物輸送としての実現は？

・そもそも嵐電は貨物事業を行っていない

・仮に貨物事業を行ったとして荷物を預かる上での問題

…荷物への責任は？

…積み卸し作業は？

→既存の『電車の貸切』は？

→早速運輸局に相談した結果…

実現に向けて

前例のない取り組みとしての課題②

●鉄軌道＝定時運行（通常は遅れる訳に行かない）
　…荷物はトラックで時間通り届くのか？
　→届かない場合は割り切ろう。

●乗客との分離をどうするのか？
　→朝のラッシュと逆方向の空いている車両を活用しよう。

●双方コストを掛けずに実現するには？
　→通常運行のダイヤを活用しよう。

実現に向けて

完成した取り組み風景

京都ベースで３トン車に積込み

7:00　西院車庫

西院車庫で電車に積み替え

トラックから直接電車へ積込み

途中駅でSDに引渡し

そのまま新スリーターに積込替え配達へ

7:37嵐山駅に到着

台車ごと新スリーターへ

京都の町に新スリーターが似合います

事業の効果

ヤマト運輸の視点で…

●渋滞に巻き込まれず配達効率がＵＰ

●安全面、環境面での大幅な改善

●早い時間からの配達で不在率削減　→　生産性ＵＰ

●嵐電沿線半径 約２５０ｍの低炭素輸送が完成

●ヤマトグループの「ネコロジー」　環境にやさしい物流

事業の効果

嵐電の視点で…

●毎日の運行による固定的な収入

●沿線の住環境の改善　→　「住みたい沿線」へ

●異業種他社との協働事業による新発見

●業界トップ企業との連携による知名度ＵＰ

●貸切運行だけに留まらない連携

更なる連携と発展①

手ぶらで観光できる！お荷物預かりと嵐電即日便の提供

嵐山観光を分析すると･･･

・観光スポットが広範囲にわたる
・歩行距離が長い
・レンタサイクルや人力車の利用頻度が高い

駅のホームにある「嵐電嵐山駅センター」
外国語による観光案内、手荷物預かり、
即日便の提供など観光客に好評

・英語・中国語・韓国語を話せる社員が常駐し、外国人にも対応
・手荷物預かり、市内の宿泊先までの配送等、オリジナルサービスの展開
・Wi-Fiスポットの提供

2012年オープンした
「東山八坂センター」
こちらも外国語案内を
提供している

「東山八坂センター」では
休憩スペースも提供

更なる連携と発展②

ヤマトグループの「客貨混載」による地域交通への貢献

■「ヒトもの」を運ぶ「客貨混載」を開始

2016年10月3日より熊本県でスタートした
産交バスでの「客貨混載」

座席の一部を活用し荷台スペースを開発

2015年6月、バスコラボ第１弾。
岩手県北自動車とのコラボ「ヒトものバス」

■9月9日、東京メトロとヤマト、地下鉄での宅配便輸送実験開始

地下鉄に模擬
荷物を積込む
ヤマト社員

2015年10月、宮崎交通とのコラボスタート
本年6月には路線を拡大し、サービス拡充

実現に至った秘訣

●参画者双方のメリット享受

●現場～トップまで同じ方向を見ることが出来たこと

●関係者の皆様のご理解・支援

●前例にとらわれない発想

ご静聴ありがとうございました。